

配信資料に関する仕様 No. 20111

～ 1 か月予報資料～

1. 概要

1 か月予報資料は、1 か月予報に関連する FAX 図形式の資料です。

2. 資料の構成及び仕様

次表の 5 種類の資料にて構成されます。詳細を次ページ以降に記します。

資料名称	概要・ファイル名・形式
1 か月予報資料（1） 実況解析図	概要：大気の流れおよび海面水温の実況を把握するための資料です。 ファイル名： Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_CHT_JCIfcvx11_JCP2048x2803_image.png 形式：PNG画像ファイル
1 か月予報資料（2） 北半球予想図	概要：北半球の大気の流れの予測を把握するための資料です。 ファイル名： Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_CHT_JCIfcvx12_JCP2048x2803_image.png 形式：PNG画像ファイル
1 か月予報資料（3） スプレッド・高偏差確率	概要：北半球の大気の流れの予測の偏りやばらつきの大きさを把握するための資料です。 ファイル名： Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_CHT_JCIfcvx13_JCP2048x2803_image.png 形式：PNG画像ファイル
1 か月予報資料（4） 各種時系列	概要：各種指数の予測の偏りとばらつきの大きさを時系列的に把握するための資料です。 ファイル名： Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_CHT_JCIfcvx14_JCP2048x2803_image.png 形式：PNG画像ファイル
1 か月予報資料（5） 熱帯・中緯度予想図	概要：熱帯の対流活動と大気の流れの予測を把握するための資料です。 ファイル名： Z__C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_CHT_JCIfcvx15_JCP2048x2803_image.png 形式：PNG画像ファイル

※各図の解釈の仕方の解説等は、「平成 24 年度季節予報研修テキスト」¹第 4 章を御参照ください。

3. 配信日時

毎週木曜日 午前 7 時頃（日本時間）

4. 障害時やメンテナンス時の対応

システム障害等により、当該気象情報の作成が不可能となった場合、配信当日に再送が可能であれば、再送します。翌日以降には再送しません。あらかじめご承知おきください。

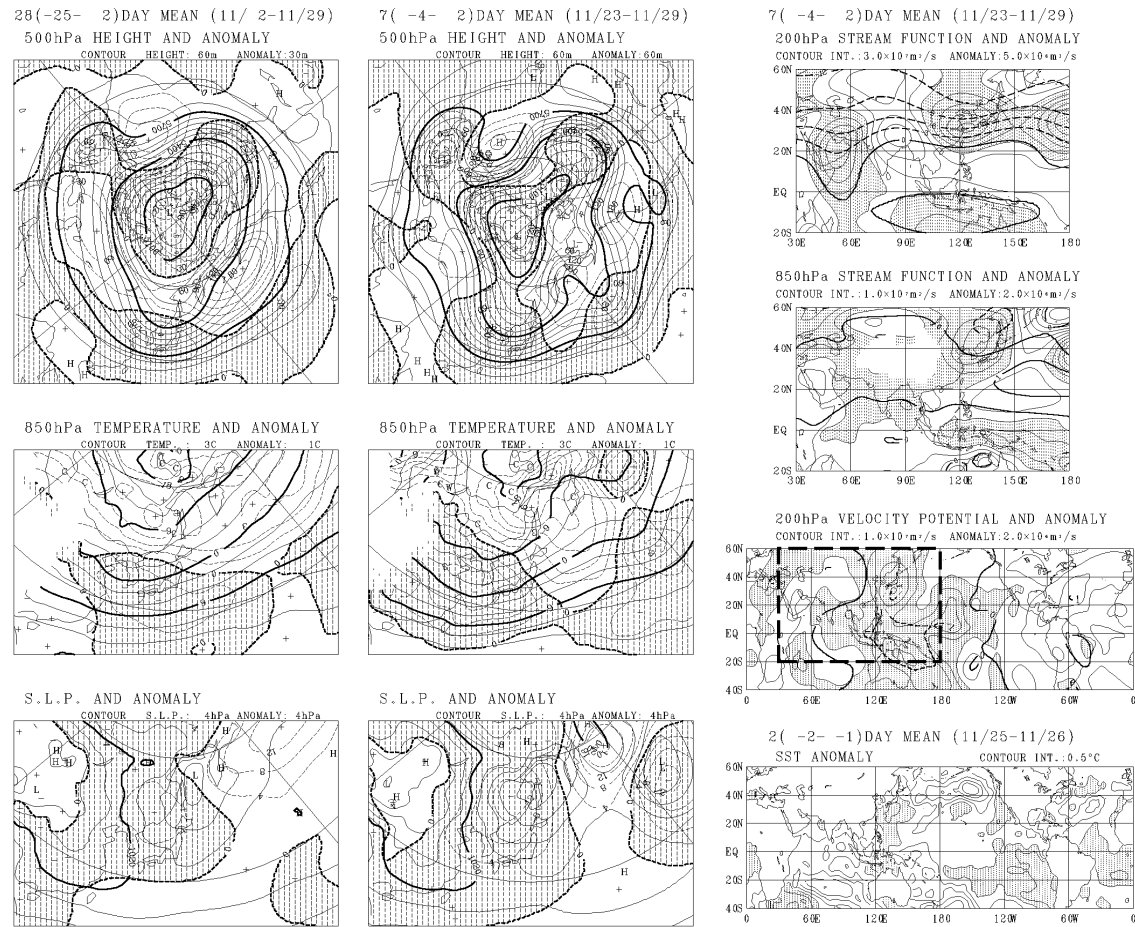
¹ <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kisetutext/kisetutext.html>

第1表 1か月予報資料（1）～（5）の等値線間隔等の詳細

資料名	要素	線種	等値線間隔	陰影
1 か月 予 報 資 料 (1) 実況解析図	500hPa 高度	実線	60m	負偏差
	同平年差	破線	30m (28 日平均) 60m (7 日平均)	
	850hPa 気温	実線	3℃	負偏差
	同平年差	破線	1℃	
	海面更正気圧	実線	4hPa	負偏差
	同平年差	破線	4hPa	
	200hPa 流線関数	正は太実線 負は太破線	$3.0 \times 10^7 \text{ m}^2/\text{s}$	負偏差 (北半球では低 気圧性循環偏差にお おむね対応)
	同平年差	実線	$5.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$	
	850hPa 流線関数	正は太実線 負は太破線	$1.0 \times 10^7 \text{ m}^2/\text{s}$	負偏差 (北半球では低 気圧性循環偏差にお おむね対応)
	同平年差	実線	$2.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$	
	200hPa 速度ポテン シャル	正は太実線 負は太破線	$1.0 \times 10^7 \text{ m}^2/\text{s}$	負偏差 (発散偏差)
	同平年差	実線	$2.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$	
	海面水温平年差	実線	0.5℃	負偏差
1 か月 予 報 資 料 (2) 北半球予想図	500hPa 高度	実線	60m	負偏差
	同平年差	破線	30m (28 日平均) 60m (7 日平均、 14 日平均)	
	850hPa 気温	実線	3℃	負偏差
	同平年差	破線	1℃	
	海面更正気圧	実線	4hPa	負偏差
	同平年差	破線	4hPa	
1 か月 予 報 資 料 (3) スプレッド・高偏差 確率	500hPa 高度	実線	60m	1.0 以上
	スプレッド	実線	0.2	
	500hPa 高度標準偏 差	破線	30m	0.5(50%)以上 (正の 高偏差に格子、負の高 偏差に横縞の影)
	500hPa 高度高偏差 確率	実線	0.25 (25%)	
1 か月 予 報 資 料 (4) 各種時系列	850hPa 気温平年差 (℃)、東西指数 (極 東域)、沖縄高度、東 方海上高度、オホー ツク海高気圧指数	太実線 (実況と予測アンサンブ ル平均) 実線 (前日初期値メンバー) 破線 (前々日初期値メンバー)		
	スプレッド	太実線 (7 日平均と 28 日平均)		
	200hPa 速度ポテン シャル平年差	正偏差は実線 負偏差は破線	$4.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$	負偏差 (発散偏差)
1 か月 予 報 資 料 (5) 熱帯・中緯度予想図	200hPa 流線関数	正は太実線 負は太破線	$3.0 \times 10^7 \text{ m}^2/\text{s}$	負偏差 (北半球では低 気圧性循環偏差にお おむね対応)
	同平年差	実線	$5.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$	
	850hPa 流線関数	正は太実線 負は太破線	$1.0 \times 10^7 \text{ m}^2/\text{s}$	負偏差
	同平年差	実線	$2.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$	
	降水量平年差	実線	4.0mm/day	負偏差
	200hPa 速度ポテン シャル	正は太実線 負は太破線	$1.0 \times 10^7 \text{ m}^2/\text{s}$	負偏差 (発散偏差)
	同平年差	実線	$2.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$	

1 か月予報資料（1） 実況解析図

初期値：2013.11.27.12 UTC



第1図 1 か月予報資料（1）実況解析図の例（初期値は2013年11月27日12Z）

1 列目：前28日間平均の解析図 ただし、初期値以降の期間の値はアンサンブル平均予測値を利用している。

1 段目：500hPa 高度と平年差 2 段目：850hPa 気温と平年差 3 段目：海面更正気圧と平年差。

2 列目：1 列目と同じ。ただし、前7日間平均

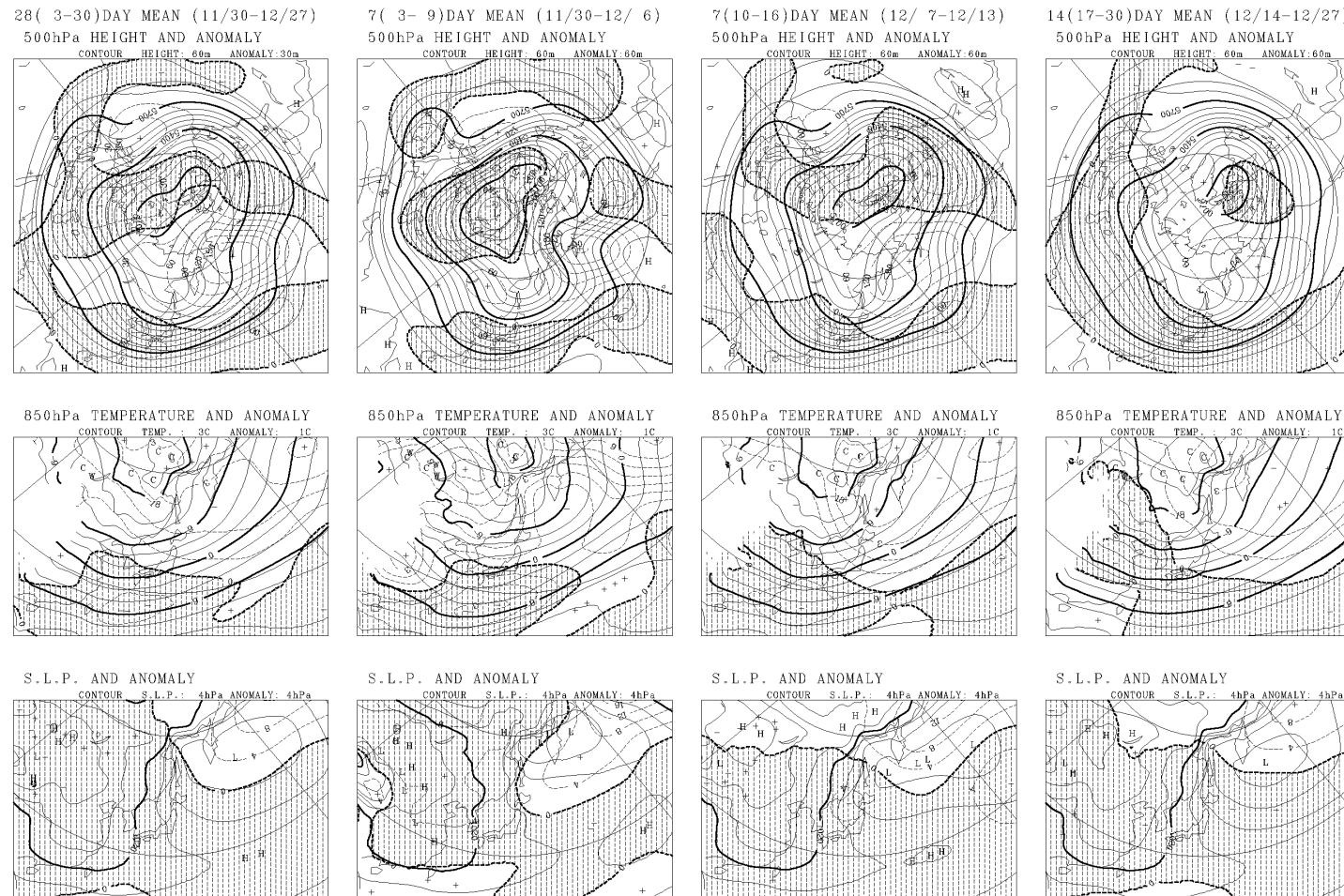
3 列目：1 段目～3 段目：前7日間平均の解析図 ただし、初期値以降の期間の値はアンサンブル平均予測値を利用している。

1 段目：200hPa 流線関数と平年差 2 段目：850hPa 流線関数と平年差 3 段目：200hPa 速度ポテンシャルと平年差（太枠は1～2 段目の表示範囲）

4 段目：初期値日前2 日間の海面水温平年差解析図

1 か月予報資料（2） 北半球予想図

初期値：2013.11.27.12 UTC



第2図 1 か月予報資料（2）北半球予想図の例（初期値は2013年11月27日12Z）

1 列目：向こう 28 日間平均のアンサンブル平均予測図

1 段目：500hPa 高度と平年差 2 段目：850hPa 気温と平年差 3 段目：海面更正気圧と平年差

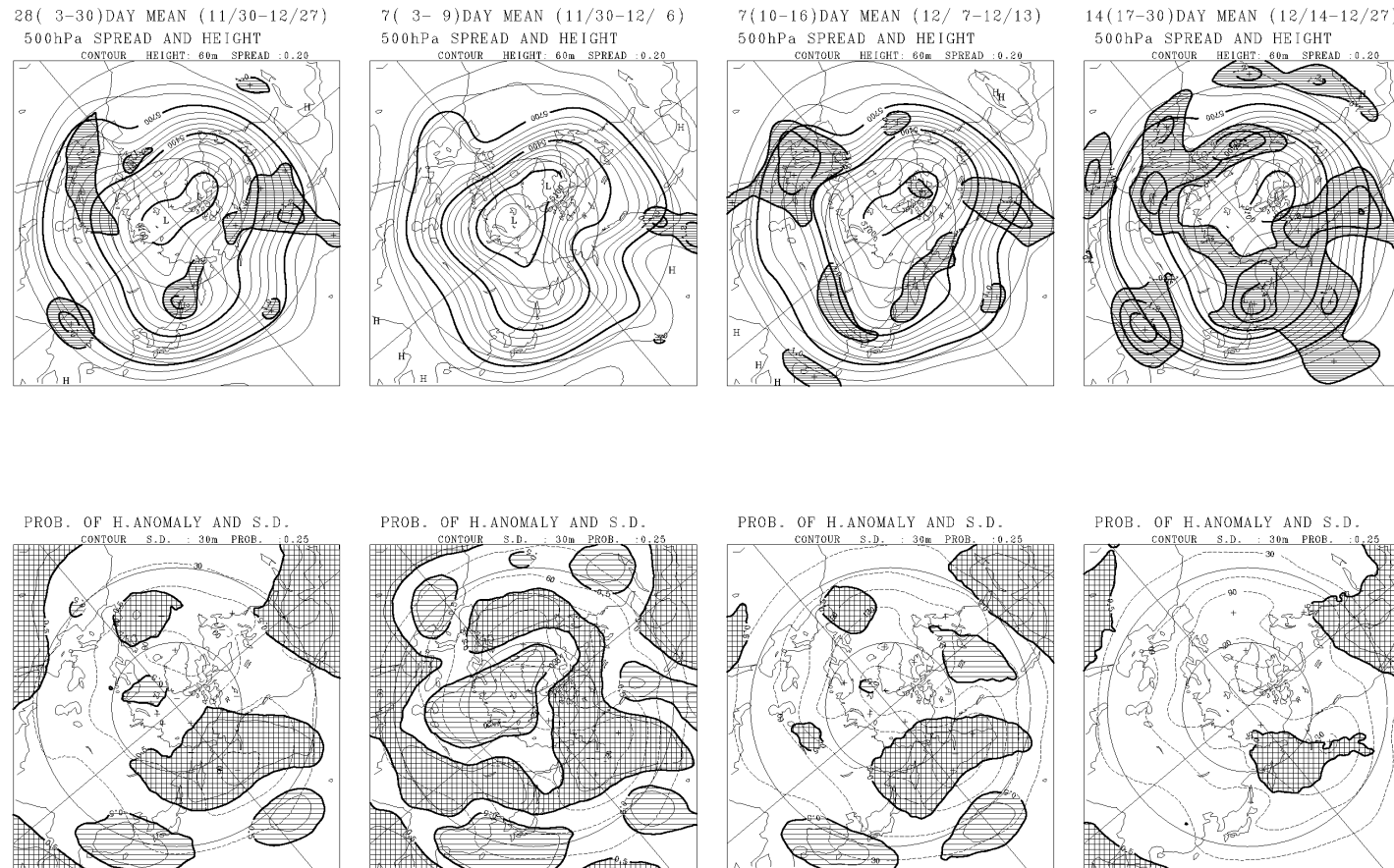
2 列目：1 列目と同じ。ただし、1 週目の 7 日間平均

3 列目：1 列目と同じ。ただし、2 週目の 7 日間平均

4 列目：1 列目と同じ。ただし、3～4 週目の 14 日間平均

1 か月予報資料（3） スプレッド・高偏差確率

初期値：2013.11.27.12 UTC



第3図 1か月予報資料（3）スプレッド・高偏差確率の例（初期値は2013年11月27日12Z）

1列目：向こう28日間平均の予測図

1段目：500hPa 高度とスプレッド 2段目：500hPa 高度の高偏差確率と平年値期間の標準偏差

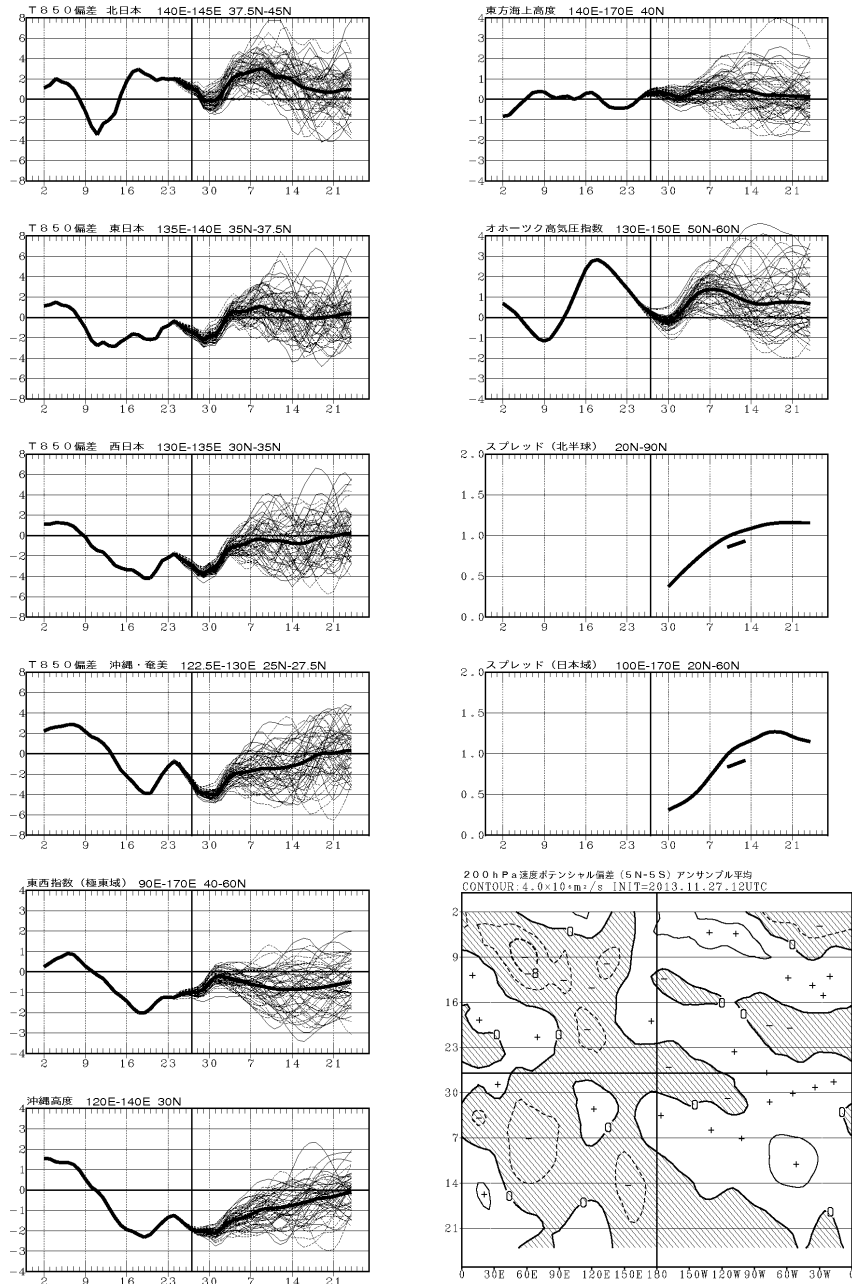
2列目：1列目と同じ。ただし、1週目の7日間平均

3列目：1列目と同じ。ただし、2週目の7日間平均

4列目：1列目と同じ。ただし、3～4週目の14日間平均

1 か月予報資料（4）各種時系列

初期値：2013.11.27.12 UTC



第4図 1 か月予報資料（4）各種時系列の例（初期値は2013年11月27日12Z）

左列：1 段目：解析値と各メンバーの予測値およびアンサンブル平均値の北日本の 850hPa 気温平年差 7 日間平均値の時系列

2 段目：1 段目と同じ。ただし、東日本の 850hPa 気温平年差 7 日間平均値

3 段目：1 段目と同じ。ただし、西日本の 850hPa 気温平年差 7 日間平均値

4 段目：1 段目と同じ。ただし、沖縄・奄美の 850hPa 気温平年差 7 日間平均値

5 段目：1 段目と同じ。ただし、東西指数（極東域）7 日間平均値

6 段目：1 段目と同じ。ただし、沖縄高度 7 日間平均値

右列：1 段目：解析値と各メンバーの予測値およびアンサンブル平均値の東方海上高度 7 日間平均値の時系列

2 段目：1 段目と同じ。ただし、オホーツク海高気圧指数 7 日間平均値

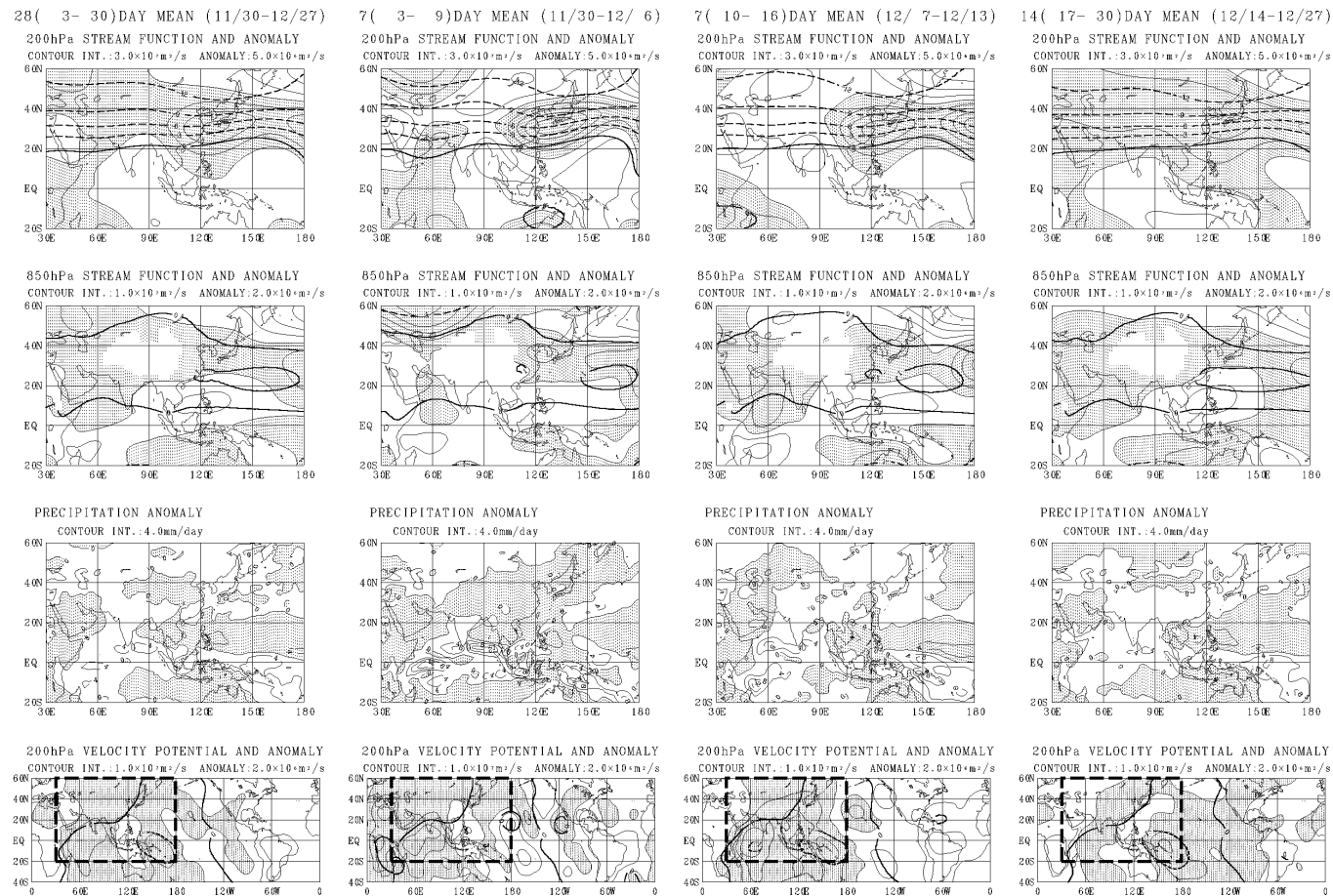
3 段目：予測された 7 日間平均および 28 日間平均のスプレッド（北半球）時系列

4 段目：3 段目と同じ。ただし、スプレッド（日本域）

5 段目：解析、および予測された赤道域の 200hPa 速度ポテンシャル平年差 7 日間平均値の時間－経度断面図

1 か月予報資料（5） 熱帯・中緯度予想図

初期値：2013.11.27.12 UTC



第5図 1 か月予報資料（5）熱帯・中緯度予想図の例（初期値は2013年11月27日12Z）

1 列目：向こう 28 日平均のアンサンブル平均予測図

1 段目：200hPa 流線関数と平年差 2 段目：850hPa 流線関数と平年差 3 段目：降水量平年差 4 段目：200hPa 速度ポテンシャルと平年差（太枠は 1～3 段目の表示範囲）

2 列目：1 列目と同じ。ただし、1 週目の 7 日間平均

3 列目：1 列目と同じ。ただし、2 週目の 7 日間平均

4 列目：1 列目と同じ。ただし、3～4 週目の 14 日間平均